

TAKAHAMA Toshiya Collecting Houses in Meguro

Where will the rolling stone eventually end up?

転石のやがていづくに流れるか

高浜利也
目黒でいえあつめ

目黒区美術館

2026.6.27. sat - 8.30. sun

10:00 - 18:00 (入館は17:30まで)

月曜休館 (7月20日は開館 / 7月21日は休館)

一般 900 (700)円、大高生・65歳以上 700 (550)円、中学生以下無料
*障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金
*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります
(他の割引との併用はできません)

主催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協賛：(公財)北野生涯教育振興会

《落石計画第1期 ワークショップCommunity on the move / 落石》2008年

TAKAHAMA Toshiya

Collecting Houses in Meguro



この度は、「いえあつめ」をコンセプトに制作する銅版画家・高浜利也による展覧会を開催します。

高浜は美術大学を出た後、銅版画制作と並行して、造作大工の仕事をしていました。当初、生活のためと割り切っていた大工の仕事で扱う図面の矩形や直線が、次第に自身の版画の構成要素となっていく、やがて高浜は「いえ」をテーマに制作するようになりました。そんな折、2006年の越後妻有アートトリエンナーレで、高浜は井出創太郎とともに空家プロジェクト《小出の家》を発表します。その際に、この場所で地元の子もたちが自然と残材で積み木遊びを始め、「まち」を作りました。これを契機に高浜は、国内外での自身の展覧会やワークショップで、積み木の「まちなみ」を作る取り組みを開始します。かつての場所で調達したその土地由来の木々端に、新たな土地のものを加えながら、移動した先々の人々の手で、新たな「いえづくり」が行われ、「まちなみ」を上書きしていきます。このワークショップは、2009年春に当館においても実施されました。様々な土地へ赴きながらその土地で出会った人々と「いえ」を作ることも、「いえ」をモチーフに銅版画を制作することも、高浜にとってはその全てが「いえあつめ」の行為であるといえます。社会と深く関わる高浜の「いえあつめ」という制作スタイルは、「版画は社会を刷り取る」と語る自身の理念のあらわれともなっています。

会場には、高浜の初期から新作までの銅版画作品とともに、目黒区立下目黒小学校の授業の一環として、高浜が児童たちと制作した積み木の「まち」が広がります。あわせて児童たちによる「いえ」や「まち」をテーマにした版画も展示されます。

「転石のやがていづくに流れるか」—これは、転石のように移動し、回転するたびに版画を刷る銅版画プレス機のローラーのように、行く先々でその地域の様々な人々を巻き込み、「いえあつめ」をする高浜自身を表した言葉です。本展会期中には、近年高浜が自身の活動の中核とする、北海道根室市落石でのアートプロジェクト「落石計画」が開催されます。その時期、高浜は目黒から落石に流れ、そしてまた目黒に戻ってきます。転石の来し方行く末、高浜の制作の軌跡を、ぜひご覧ください。



高浜利也
《Community on the move / Railway 5》
2011年、エッチング、アクアチント・
紙に油性インク、作家蔵



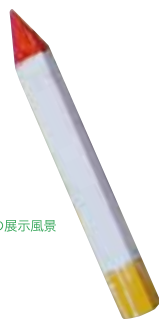
高浜利也《House in Shanghai-1》
2008年、エッチング、アクアチント、
ドライポイント・紙に油性インク、作家蔵



高浜利也《振るるまなざしより / b'》
1992年、エッチング、
アクアチント・紙に油性インク、
町田市立国際版画美術館



高浜利也個展《Black Diary》ギャラリーなつか(2025年)での展示風景



高浜利也《Black Diary》
2020年頃～現在、版画本、作家蔵

高浜利也 目黒でいえあつめ



転石のやがていづくに流れるか
Where will the rolling stone eventually end up?

関連催事

当館での催事は全て、当日先着順、当日有効の観覧券が必要です。

●7月5日(日) 14:00~15:00

アーティストトーク

本展出品作家である高浜利也が、自作について語ります。

場 所: 1階ワークショップ室、展示室

定 員: 20名程度

●8月8日(土) 13:00~14:00 頃

オンライン中継によるトークイベント

「落石計画ギャラリートーク:

無線局における繕いの作法について」

同時期に開催中の「落石計画」で実施されるギャラリートーク

を現地会場の旧落石無線送信局(北海道根室市落石西 244-4 /

池田良二スタジオ)から中継します。

場 所: 1階ワークショップ室

定 員: 30名程度

スピーカー: 井出創太郎(腐蝕銅版画家)

高浜利也(本展出品作家)

ゲスト: O JUN (画家)

ファシリテーター: 当館学芸員

●8月22日(土) 14:00~15:00

大人のための美術カフェ: アーティストとの対談編

本展を担当した学芸員が、本展出品作家の高浜利也と、

展覧会開催までの経緯や見どころなどをお話します。

場 所: 1階ワークショップ室

定 員: 30名程度

同時開催

ワークショップ 2026 夏

「版画でいえあつめ」

詳細は当館ウェブサイトでご確認ください



会期中の高浜利也のアートプロジェクト

高浜利也の下記のプロジェクトが、本展会期中に開催されます。

「落石計画第16期 Scar Repair

— 繕いの作法 — 井出創太郎+高浜利也」

会 期: 8月7日(金)~8月11日(火・祝)

10:00~16:00

場 所: 旧落石無線送信局

(北海道根室市落石西 244-4 / 池田良二スタジオ)

関連催事:

●8月7日(金)、10日(月) 10:00~15:00 頃

落石計画第16期ワークショップ

「community on the move / 落石II」

—かえってきたつみぎのまちなみ—

●8月8日(土) 13:00~14:00 頃

落石計画ギャラリートーク

「無線局における繕いの作法について」

※本トークの模様は中継され、

目黒区美術館でご覧いただけます。

お問い合わせ先: 落石計画実行委員会

ochiishikeikaku@gmail.com

(美術館へのお問い合わせはご遠慮ください。)



公式 SNS

目黒区美術館

〒153-0063
東京都目黒区目黒2-4-36
Tel. 03-3714-1201
https://www.mmat.jp

JR山手線・東急目黒線

東京メトロ南北線・都営三田線

「目黒」駅(西口)から徒歩10分

東急東横線・東京メトロ日比谷線

「中目黒」駅から徒歩20分

東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、

「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分

※ 目黒区民センター隣接

※ 当館には来館者専用の駐車場はありませんので、

電車・バスなど公共交通機関をご利用ください。

※ お車でお越しの場合は隣接の目黒区民セン

ターの駐車場(有料)をご利用ください。



TAKAHAMA Toshiya Collecting Houses in Meguro

Where will the rolling stone eventually end up?

転石のやがていずこに流れるか

高浜利也
目黒でいえあつめ

目黒区美術館

2026.6.27. sat - 8.30. sun

10:00 - 18:00 (入館は17:30まで)

月曜休館 (7月20日は開館 / 7月21日は休館)

一般 900 (700)円、大高生・65歳以上 700 (550)円、中学生以下無料
*障がいのある方とその付添者1名は無料、()内は20名以上の団体料金
*目黒区在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと団体料金になります
(他の割引との併用はできません)

主催：(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
協賛：(公財)北野生涯教育振興会

高浜利也《Black Diary》2020年頃～現在、版画本、作家蔵

TAKAHAMA Toshiya Collecting Houses in Meguro



この度は、「いえあつめ」をコンセプトに制作する銅版画家・高浜利也による展覧会を開催します。

高浜は美術大学を出た後、銅版画制作と並行して、造作大工の仕事をしていました。当初、生活のためと割り切っていた大工の仕事で扱う図面の矩形や直線が、次第に自身の版画の構成要素となっていき、やがて高浜は「いえ」をテーマに制作するようになりました。そんな折、2006年の越後妻有アートトリエンナーレで、高浜は井出創太郎とともに空家プロジェクト《小出の家》を発表します。その際に、この場所で地元の子どもたちが自然と残材で積み木遊びを始め、「まち」を作りました。これを契機に高浜は、国内外での自身の展覧会やワークショップで、積み木の「まちなみ」を作る取り組みを開始します。かつての場所で調達したその土地由来の木っ端に、新たな土地のものを加えながら、移動した先々の人々の手で、新たな「いえづくり」が行われ、「まちなみ」を上書きしていきます。このワークショップは、2009年春に当館においても実施されました。様々な土地へ赴きながらその土地で出会った人々と「いえ」を作ることも、「いえ」をモチーフに銅版画を制作することも、高浜にとってはその全てが「いえあつめ」の行為であるといえます。社会と深く関わる高浜の「いえあつめ」という制作スタイルは、「版画は社会を刷り取る」と語る自身の理念のあらわれともなっています。

会場には、高浜の初期から新作までの銅版画作品とともに、目黒区立下目黒小学校の授業の一環として、高浜が児童たちと制作した積み木の「まち」が広がります。あわせて児童たちによる「いえ」や「まち」をテーマにした版画も展示されます。

「転石のやがていづくに流れるか」—これは、転石のように移動し、回転するたびに版画を刷る銅版画プレス機のローラーのように、行く先々でその地域の様々な人々を巻き込み、「いえあつめ」をする高浜自身を表した言葉です。本展会期中には、近年高浜が自身の活動の中核とする、北海道根室市落石でのアートプロジェクト「落石計画」が開催されます。その時期、高浜は目黒から落石に流れ、そしてまた目黒に戻ってきます。転石の来し方行く末、高浜の制作の軌跡を、ぜひご覧ください。



高浜利也
《Community on the move / Railway 5》
2011年、エッチング、アクアチント・紙に油性インク、作家蔵



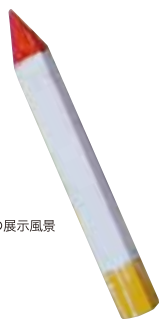
高浜利也《House in Shanghai-1》
2008年、エッチング、アクアチント、ドライポイント・紙に油性インク、作家蔵



高浜利也《振れるまなざしより / b'》
1992年、エッチング、アクアチント・紙に油性インク、町田市立国際版画美術館



高浜利也個展《Black Diary》ギャラリーなつか(2025年)での展示風景



《落石計画第1期 ワークショップ Community on the move / 落石》
2008年

関連催事

当館での催事は全て、当日先着順、当日有効の観覧券が必要です。

●7月5日(日) 14:00~15:00

アーティストトーク

本展出品作家である高浜利也が、自作について語ります。

場 所：1階ワークショップ室、展示室

定 員：20名程度

●8月8日(土) 13:00~14:00頃

オンライン中継によるトークイベント

「落石計画ギャラリートーク」

無線局における繕いの作法について

同時期に開催中の「落石計画」で実施されるギャラリートークを現地会場の旧落石無線送信局（北海道根室市落石西 244-4 / 池田良二スタジオ）から中継します。

場 所：1階ワークショップ室

定 員：30名程度

スピーカー：井出創太郎（腐蝕銅版画家）

高浜利也（本展出品作家）

ゲスト：O JUN（画家）

ファシリテーター：当館学芸員

●8月22日(土) 14:00~15:00

大人のための美術カフェ：アーティストとの対談編

本展を担当した学芸員が、本展出品作家の高浜利也と、

展覧会開催までの経緯や見どころなどをお話します。

場 所：1階ワークショップ室

定 員：30名程度

同時開催

ワークショップ 2026 夏

「版画でいえあつめ」

詳細は当館ウェブサイトでご確認ください



会期中の高浜利也のアートプロジェクト

高浜利也の下記のプロジェクトが、本展会期中に開催されます。

「落石計画第16期 Scar Repair

—繕いの作法— 井出創太郎+高浜利也

会 期：8月7日(金)~8月11日(火・祝)

10:00~16:00

場 所：旧落石無線送信局

(北海道根室市落石西 244-4 / 池田良二スタジオ)

関連催事：

●8月7日(金)、10日(月) 10:00~15:00頃

落石計画第16期ワークショップ

「community on the move / 落石II」

—かえってきたつみきのまちなみ—

●8月8日(土) 13:00~14:00頃

落石計画ギャラリートーク

「無線局における繕いの作法について」

※本トークの模様は中継され、

目黒区美術館でご覧いただけます。

お問合わせ先：落石計画実行委員会
ochiishikeikaku@gmail.com
(美術館へのお問合わせはご遠慮ください。)



公式 SNS

目黒区美術館

〒153-0063

東京都目黒区目黒 2-4-36

Tel. 03-3714-1201

https://www.mmat.jp

□JR山手線・東急目黒線

東京メトロ南北線・都営三田線

「目黒」駅(西口)から徒歩10分

□東急東横線・東京メトロ日比谷線

「中目黒」駅から徒歩20分

□東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、

「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分

※ 目黒区民センター隣接

※ 当館には来館者専用の駐車場はありませんので、

電車・バスなど公共交通機関をご利用ください。

※ お車で越しの場合は隣接の目黒区民センターの駐車場(有料)をご利用ください。



高浜利也
目黒でいえあつめ

転石のやがていづくに流れるか